

## 第4学年 算数科学習指導案

### 「学び合う子供の育成」 ～ 考えを広げたり、深めたりする問いの工夫 ～

単元名 11 式と計算 計算のきまりを使って式を読み取ろう	内容のまとめり 第4学年「A 数と計算」(6)数量の関係を表す式 「A 数と計算」(7)四則に関して成り立つ性質
-------------------------------------	--

#### 1 単元目標

- (1) 四則混合の式や( )を用いた式の意味がわかり、計算の順序を理解することができる。数量の関係を式で簡潔に表したり、式を正しく計算したりすることができる。また、□や△などの記号を用いて、計算法則を表すことができる。
- (2) 具体的な場面から1つの式をつくったり、式から具体的な場面を考えたりする力や、□や△などの記号を用いると、計算法則を簡潔、一般的に表せることに気付く力を養う。
- (3) 四則混合の式や( )を用いた式を用いたり、□や△などの記号を用いて、交換法則や結合法則、分配法則を簡潔に表せることに気付き、それを活用したりしようとする態度を養う。

#### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①四則の混合した式や( )を用いた式について理解し、正しく計算することができる。 ②公式についての考え方を理解し、公式を用いることができる。 ③数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすることができる。 ④四則に関して成り立つ性質についての理解を深めることができる。	①問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ②数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えることができる。	①式や公式のよさに気付き、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ろうとしたりしている。 ②整数の計算に関して成り立つ性質を用いると、計算を簡単にすることができる場合があることなど、計算に関して成り立つ性質のよさに気付き、工夫して計算しようとしている。

#### 3 指導と評価の計画(8時間)

これまでに児童は、四則の意味、四則の相互関係、計算について成り立つ性質などは低学年から学習してきており、新しい内容ではない。ここでは、この理解を深め、要素間の関係が複雑な場合の事実関係を、式に表すことをねらいとしている。したがって、ここでの学習は、形式的に理解させるのではなく、しっかりと関係をとらえて式に表すことができるよう、視覚支援や言葉での説明を丁寧に行う。

本単元では、2段階になっている数量の関係について学習した後、交換法則・結合法則について学習し、分配法則を扱う。児童にとって、分配法則の理解が難しいことから、交換法則・結合法則の授業と同じ流れで分配法則の授業を行うことで、より分配法則への難易度を下げることが目指す。

導いた式を法則として用いるために、乗法や除法の式にいろいろな数をあてはめ、どんなきまりが成り立つか、乗数と積の関係や除数と商や被除数と商の関係から調べさせ、見つけたきまりについてほかの数でも適応できるか積極的に確かめさせるようにする。

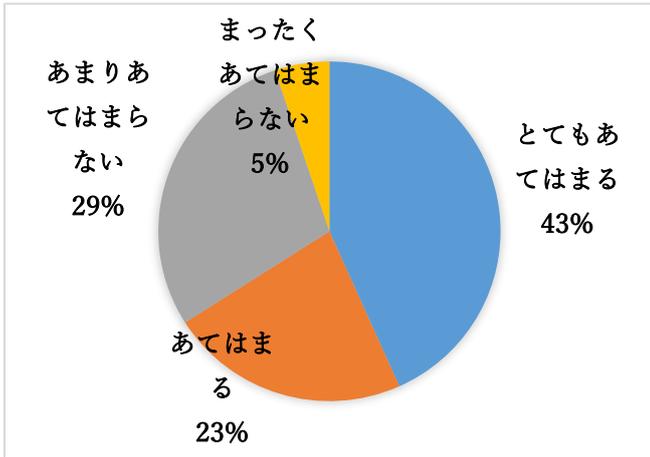
時間	●ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2つの式を1つの式に表す方法を考え、<math>( )</math>を用いて立式することができる。</li> <li>・持っているお金から、ノートと電池の代金をそれぞれ引く場合と、それぞれを合わせた代金をまとめて引く場合で一つの式に表し、<math>( )</math>の使い方や意味を知る。</li> <li>・<math>( )</math>を使ってひとまとまりとみることで、2つの式を1つの式で表す。</li> </ul>			<p>態①式や公式のよさに気づき、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ろうとしたりしている。</p> <p>（ノート分析、行動観察）</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四則混合の式ではかけ算やわり算を先に計算するということが理解することができる。</li> <li>・ラケット1本と羽根2本の代金を求める式を1つの式に表し、四則混合の式での計算の順序について考える。</li> <li>・入園料の合計を1つの式に表す。</li> </ul>	<p>知①四則混合の式では、乗除を先に計算することを理解している。</p> <p>（ノート分析、行動観察）</p>		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四則の混合した式や<math>( )</math>を用いた式の計算順序を理解するとともに、正しく計算することができる。</li> <li>・<math>( )</math>と四則の混合式の計算順序について考え、発表する。</li> <li>・<math>( )</math>と四則の混合式を正しい順序で計算する。</li> </ul>	<p>知②四則の混合した式や<math>( )</math>を用いた式について正しく計算することができる。</p> <p>（ノート分析、行動観察）</p>		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●□や△などの記号を用いて、加法・乗法の交換法則・結合法則を確認することができる。</li> <li>・交換法則や結合法則について確認し、□や△などの記号を用いて簡潔、一般的に表す方法を考える。</li> <li>・□や△に具体的な数を入れて、きまりを確かめる。</li> </ul>	<p>知③数量を□、△などを用いて表し、その関係を式にしたり、□、△などに数を当てはめて調べたりすることができる。また、□、△などを用いた式では、「同じ記号には同じ数が入る」こと</p>		

		を理解している。 (ノート分析、行動観察)		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●具体的な場面において、加法の分配法則が成り立つことを理解し、□や△を用いてまとめることができる。</li> <li>・シートごとのシールの枚数を考えて合わせる方法と、2つのシートをまとめて枚数を求める方法について、2つの式の違いを比べて説明する。</li> <li>・2つの式が等号で結ばれることをまとめ、□や△で書き表す方法を考える。</li> </ul>		<p>思①2通りの式の違いを比べて、共通するきまりや関係を考え、見いだしている。</p> <p>(ノート分析、行動観察)</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●具体的な場面において、減法の分配法則が成り立つことを理解し、□や△を用いてまとめることができる。</li> <li>・シートごとのシールの枚数を考えて差を比べる方法と、2つのシートの縦の差を先に計算して全体の数を計算する方法について、2つの式の違いを比べて説明する。</li> <li>・2つの式が等号で結ばれることをまとめ、□や△で書き表す方法を考える。</li> </ul>	<p>知③□、△などの記号を用いて、分配法則を一般的な式に表すことができる。</p> <p>(ノート分析、行動観察)</p>		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●具体的な場面で、交換法則・結合法則・分配法則を用いて、工夫して計算することができる。</li> <li>・代金、値引き額を1つ分として考える方法と、値引き分をまとめて考える方法を比べ、分配法則について確認する。</li> <li>・計算のきまりを使って簡単に計算する方法を考え、発表する。</li> </ul>			<p>態②整数の計算に関して成り立つ性質を用いると、計算を簡単にすることができる場合があることなど、計算に関して成り立つ性質のよさに気づき、工夫して計算しようとしている。</p> <p>(ノート分析、行動観察)</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乗法や除法の式に、いろいろな数を当てはめ、どんなきまりが成り立つか調べることができる。</li> <li>・かけられる数とかける数や、かけられる数と積の大きさについて、きまりを見つけ自分なりの言葉で説明する。</li> <li>・わられる数と商の間にあるきまりを見つける。</li> </ul>		<p>思②乗法の2つの式を比べて、何が変わっているのかを指摘しながら、きまりを考えている。</p> <p>(ノート分析、行動観察)</p>	

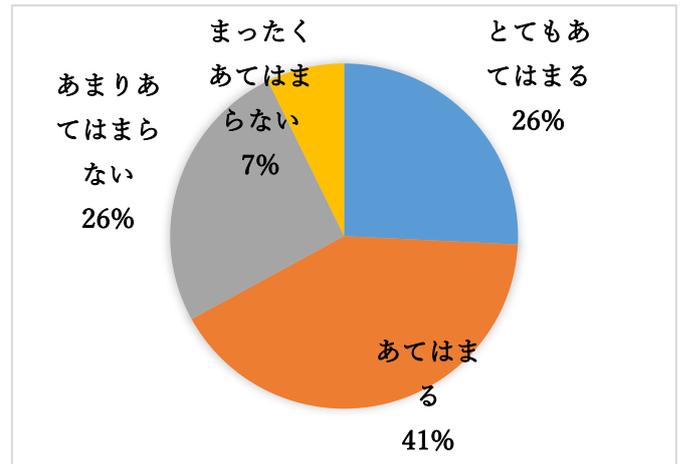
9	●既習事項について理解し、それを活用して問題を解くことができる。	知④四則の混合した式や( )を用いた式について正しく計算することができる。 (ノート分析、行動観察)		
---	----------------------------------	---	--	--

4 児童の実態

1 勉強することが好きである。

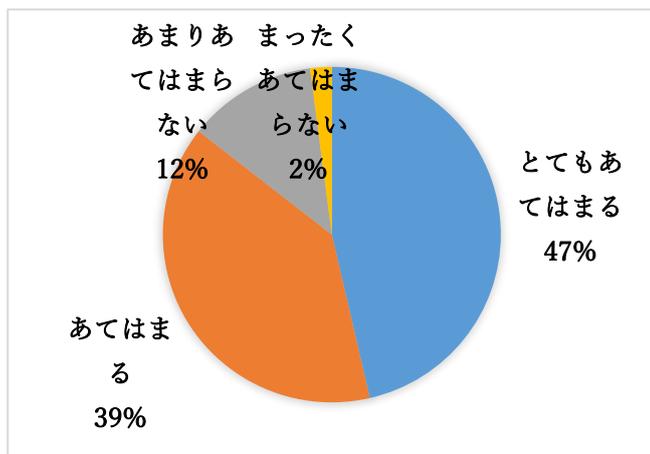


8 算数が好きである。

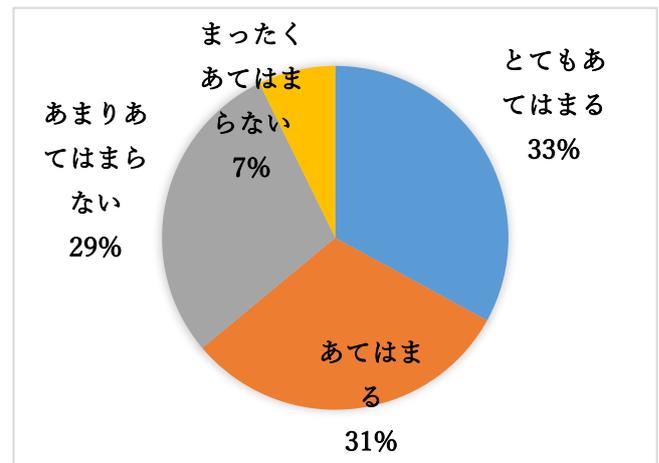


本学年の児童は、勉強が好きと答えた児童は66%、算数が好きと答えた児童は67%である。昨年度の4年生に向けたアンケートでは、算数が好きだと答えた児童は65%おり、本年度の4年生においては、算数が好きな児童の割合が若干増えていることが分かる。アンケートの結果や普段の学習の様子を見ていると、基礎的な計算の技能を身に付けている児童が多く、計算を楽しんでいる様子が見られる。その一方、それらを活用して応用問題を解いたり、新しい課題に取り組んだりすることに苦手意識をもっているようである。

2 自分の考えをもつことができる。



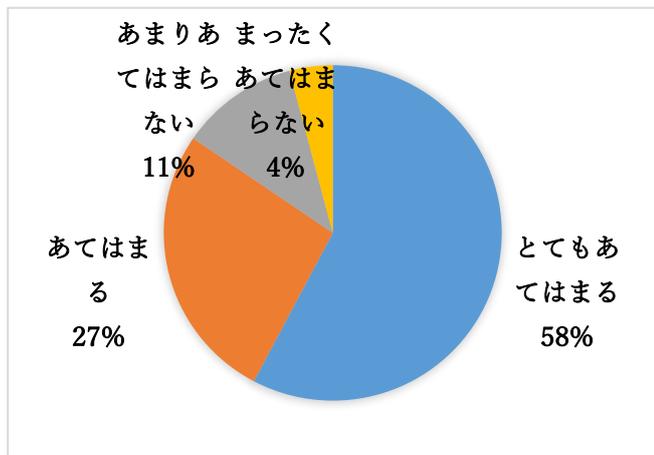
5 自分の考えを發表することが好きである。



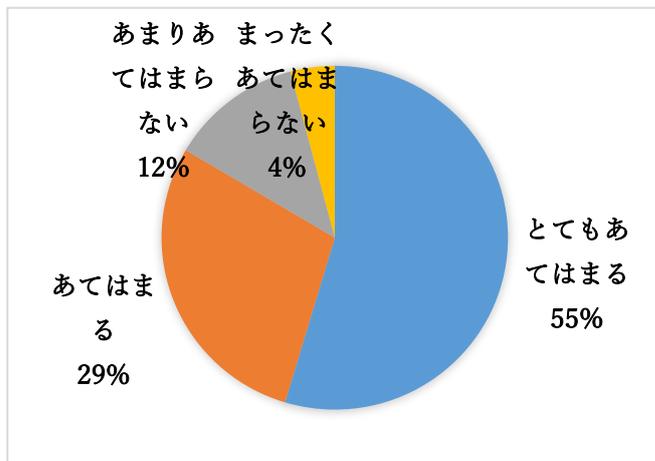
自分の考えをもっている児童は86%であるが、これも、昨年度の4年生は81%であったことを考えると、高い割合である。今までの学習の中で、図や表、グラフなどを用いて自分の考えを書く授業を繰り返して行っており、一定数の児童は自分なりの考えをもち、ノートに表すことができる。その一方、まだ考えを書くことが身に付いていない、既習事項の学習が十分に定着していない児童も多くおり、それらの児童が考えを書くことができるような手立てが必要であることが考えられる。また、自分の考えを發表することに抵抗がある児童も多い。

自分の考えに自信がない、間違えた際の不安感などが要因と考えられる。今後、考えを説明する機会を保障するなど、全体の中だけではなくペアや少人数での交流する機会を作っていくことが必要である。

### 3 友達の考えを聞きたいと思う。

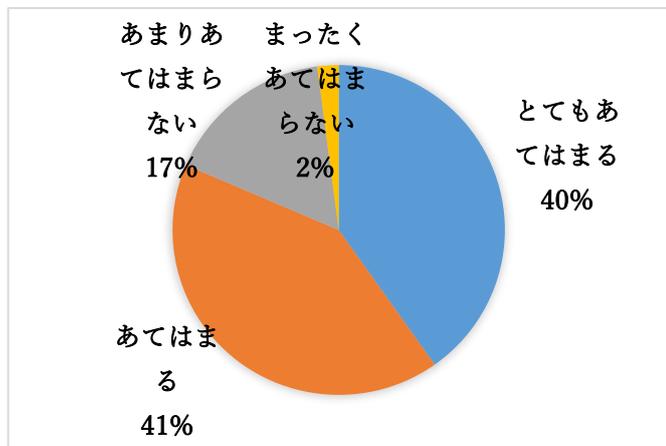


### 4 友達と話し合うことで、新たな発見がある。



友達の考えを聞きたいと思う児童は85%、友達と話し合うことで新たな発見があると答えた児童は84%である。友達の意見を聞いたり、話し合ったりすることに否定的な児童も数名いる。友達の考えを聞くことで、自分の考えが広がったり、深まったりするといった経験をもっと意識的に積み重ねていく必要がある。

### 9 算数の授業では、今日のめあてを意識して勉強している。



算数の授業で、今日のめあてを意識して勉強している児童は81%にとどまっている。めあては先生が提示してくれるものであると考えている児童も少なくないようである。既習事項を踏まえ、本時の問題に向き合わせることで、児童が自らめあてを立てることができる。毎時間、めあてを児童が立てられるよう、支援をしていく必要がある。自分たちでめあてを立てることで、めあてを意識し、めあてに沿って学習を進めていくことができるようになる。

## 5 研修主題に迫るための具体的な手立て

自分の考えがもてない児童や自分の考えに自信がない児童でも、他者との学び合いを通して、自分の考えをもち（変化させ）、自分なりに表現できることを目指していく。また、自力解決だけの学習ではなく、学級全体で友達の考えや発言を積み重ねていく時間を確保することで、児童一人一人の理解を確かなものにしていきたい。

このように授業の展開を工夫することで、友達と学習する楽しさを児童に十分に味わわせるとともに、算数科の学習が好きだと感じる児童を増やしていきたい。

そのために、以下のような手立てを考える。

## A 学びに向き合う時間

### ○問いかけの工夫

①前時までの問題と本時での問題を比較させる。児童に相違点を気付かせることで、本時のめあてを立てさせる。

「前回までの問題と今日の問題を比べると、何が違いますか？」

「今日の学習は、何をめあてにしますか？」

②算数～考え方のヒント～を掲示し、問題を解決するための方法と答えの見通し（予想）を立てさせてから、自力解決に取り組ませる。

「問題を解決するためには、どのように考えたらよいでしょう。」

「答えは、どうなる（どれくらいになる）と思いますか。」

「他にはどのような方法でできそうですか。」

③黒板に提示された多様な考えの中から、複数の意見を比較、関連付けし、共通点を探させる。（練り上げの実施）

「この考え方はどういうことだと思いますか。」

「〇〇さんがこのように考えたのは、どうしてだと思いますか。」

「この考えの良さは何だと思いますか。」

「一番目の式と二番目の式を見比べてみましょう。どんな共通点がありそうですか。」

「一番目の式と二番目の式を見比べてみましょう。どんな違いがありますか。」

④どの考え方にも適用できる共通点を言語化し、児童の言葉を用いてまとめさせる。（再構築）

「2つの式をまとめると、どうなりますか。」

「2つの式を記号で表すとどうなりますか。」

「どうして、記号でまとめた方がよいのですか。」

「数字ではなく、記号でまとめることの良さとは何ですか。」

「今日の学習ではどんなことを学びましたか。」

「今日学んだことを一文でまとめるとどうなりますか。」

⑤1時間の自分の学習を振り返り、学習感想を書く時間を終末部に設定する。

「今日の自分の学習はどうでしたか。自分自身を振り返ってみましょう。」

### ○教師の働きかけの工夫

①既習事項と結び付けて考えさせる。

「昨日、学習したことは何でしたか。」

「前時ではどんなことを学習しましたか。」

②児童の考え（解き方）に名前を付ける。

「〇〇作戦    〇〇方式・・・」

## ○ノート指導

- ①めあてを青色の線、まとめを赤色の線で囲むように統一する。
- ②児童の思考過程を捉えるために、「自分の考え」を消さずに残しておくようにする。さらに、友達のことを書き足すようにする。

## B 学びを進める空間

### ○指導と評価の一体化を目指して

- ①問題解決型の授業を展開する。  
連続した課題解決型の授業を展開するために、毎時間の学習の流れを以下のように設定する。  
(前時の振り返り⇒問題把握⇒めあて⇒予想(見通し)⇒自力解決⇒全体検討(練り上げ)⇒まとめ⇒適用問題⇒振り返り)
- ②本時のめあてを工夫する。  
前時までの問題と本時の問題の相違点に気付かせることで、児童がめあてを立てられるようにする。また、児童にとって、学習のまとめにつなげやすいめあての文言にする。
- ③1時間の自分の学習を振り返らせる。  
児童の理解度やつまづきを把握するために、学習感想を書く時間を設定する。
- ④評価の3観点において、授業中のどの場面で評価していくのかを事前に明確にしておく。  
【知識・技能】  
問題に対して立式している場面  
既習事項を生かして問題解決している場面 など  
【思考・判断・表現】  
自分の考えを様々な方法を用いて説明している場面(ノートへの記述・発表) など  
【主体的に学習に取り組む態度】  
学習を振り返っている場面(学習感想の記述・発表) など

### ○児童の実態に合った教材や資料の工夫

- ①既習事項のまとめを壁面に掲示する。  
いつでもすぐに既習事項を確認できるようにすることで、既習事項を生かして課題に取り組むことができるようにする。
- ②「算数～考え方のヒント」～を提示する。  
どのように解決したらよいかという解決方法の見通しをもたせる。(下図参照)

③児童の実態に合わせて、問題で取り扱う数字を配慮する。

問題文で取り扱う数字を平易なものにすることで、  
計算につまづかせないようにし、本来の学習のねらいに集中させるようにする。

④振り返りの時間を設定する。

学習感想を書くための視点を提示する。(右図参照)

学習感想	
○	分かったこと、むずかしいと思ったこと
○	友達の考えでいいなと思ったこと
○	これから学習してみたいこと

算数 ～考え方のヒント～

1. **図**を書いて考えよう。  
(タイル や 絵 など)
2. **表**を書いて考えよう。  

色紙		
人数		
3. **線分図(テープ図)**を書いて考えよう。  

4. **簡単な数**に直して考えよう。
5. **別の式**にして考えよう。

## C 学びを促す仲間

### ○「できる」「分かる」「楽しい」の喜びを共有する取り組み

①書画カメラと電子黒板を活用する。

短時間で友達の考えを共有させることで、友達の考えの良さを感じさせるとともに、それを教師が価値付けていく。

②交流活動を取り入れる。(ペア、小グループ、全体)

自分の考えを友達に伝えることで、自分の考え方を整理させる。また、友達から多様な意見を聞くことで、考えの手がかりにさせる。

③発表された考えを全体で検討していく。(練り上げの実施)

黒板に明記された児童の考えを他の児童が説明したり補足したりする等の児童相互の学び合いを通して、理解がより深まるようにする。

④友達の考えを聞く時の視点を明確にしておく。

友達の発表を聞くときには、自分の考えと比較して、どのような共通点と相違点があるのかという視点をもたせる。

6 本時の授業(全9時間中の第5時間目) しっかりAコース

① 第5時の目標

・具体的な場面で加法の分配法則が成り立つことに気付く。

② 第5時の展開

	主な学習活動と児童の反応 T:問いかけ C:予想される児童の反応	留意点と評価(※留意点、☆評価)
導入 (5分)	<p>①前時の振り返りをする。 T:どんなことを学習してきましたか。 C:計算のきまりを見つけました。</p> <p>T:どんな計算のきまりがありましたか。 C:( )を先に計算する。 C:<math>\square \times \Delta = \Delta \times \square</math> C:<math>(\square \times \Delta) \times \bigcirc = \square \times (\Delta \times \bigcirc)</math></p> <p>②めあてを立てる。 T:前時の振り返りを発表してください。 C:他にはどのような計算のきまりがあるのか、調べたいと思いました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">(他には)どのような計算のきまりがあるのか調べよう。</div>	<p>※導入では以下の3点を思い出させる。</p> <p>①計算のきまりの具体的な内容 ②計算のきまりとはどんな数字を当てはめても成り立つこと ③計算のきまりは記号で表せること</p> <p>※前時までの児童の振り返り(学習感想)を基に、本時のめあてを立てる。</p>
	<p>③問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ぶどうとりんごのシールがあります。シールは全部で何枚になるでしょうか。</div> <p>④自力で解決する。 C1:<math>6 \times 8 + 4 \times 8 = 80</math> ぶどうのシールのまい数を計算した後に、とりんごのシールのまい数を計算する。 C2:<math>(6+4) \times 8 = 80</math> ぶどうとりんごのシールのたての数を足して、あとから8列分を計算する。</p> <p>⑤考えを発表する。 T:これらの式を説明してください。 C:ぶどうのシール6枚を8列分と、りんごのシール4枚を8列分。バラバラに計算して、2つを合わせています。 C:バラバラ作戦です。 C:先にぶどうのシールとりんごのシールのたての数をまとめます。それが全部で8列あるから最後にかけて計算しました。 C:まとめて作戦です。</p>	<p>※シールシートを用意し、数字や線を書き込むことにより問題解決の見通しがもてるようにする。</p> <p>※発表した児童の式や図を他の児童に説明させる。 ※児童の発言(エッセンス)を板書し、残しておく。 ※考えに名前(〇〇作戦など)をつけ、理解しやすいようにする。</p>

展開(25分)

⑥話し合いながら、計算のきまりを見付ける。  
 T:これらの式から、どのような計算のきまりが見付かりそうですか？  
 C:式や考え方がちがいます。  
 C:どちらもシールのまい数を表しているということは同じです。  
 C:答えが同じなので、2つの式を=で結べます。  
 C:2つの式が同じだという計算のきまりがありそうです。  
 C:他の数字でもたしかめてみないと、計算のきまりとは言えません。

⑦問題を解き、他の数字でも成り立つのか確認をする。

ぶどうとりんごのシールがあります。シールは全部で何枚になるでしょうか。

⑧考えを発表する。  
 C1:  $3 \times 6 + 2 \times 6 = 30$   
 C2:  $(3+2) \times 6 = 30$   
 C:答えは同じになるから、2つの式を=でむすべそうです。  
 C:  $3 \times 6 + 2 \times 6 = (3+2) \times 6$

⑨本時のまとめをする。

バラバラ作戦=まとめて作戦という計算のきまりがある。

⑩記号を用いた表し方を知る。

バラバラ作戦=まとめて作戦という計算のきまりがある。  
 $\square \times \bigcirc + \triangle \times \bigcirc = (\square + \triangle) \times \bigcirc$ という計算のきまりになる。

⑪適用問題を解く。  
 T:バラバラ作戦はまとめて作戦に、まとめて作戦はばらばら作戦の式に変えましょう。  
 ・  $22 \times 4 + 28 \times 4$   
 ・  $(5+10) \times 7$

⑫本時の学習を振り返り、学習感想を書く。

※共通点と差異点を見付けながら、考える。

※計算のきまりとはどんな数字を当てはめても成り立たなければならないことを児童から引き出す。

※バラバラ作戦とまとめて作戦の両方に取り組ませる。  
 ※計算のきまりにつながるように、同じ数字は同じ色で線をひく。

※まとめることが苦手な児童には、板書してある言葉をつなげるよう促す。

※色がついた数字を記号に変換していく。

☆【思】2通りの式の違いを比べて、共通するきまりや関係を考え、見いだしている。(ノート分析、行動観察)  
 ※振り返りの視点を示して学習を振り返らせる。

	<p>主な学習活動と児童の反応 T:問いかけ C:予想される児童の反応</p>	<p>留意点と評価(※留意点、☆評価)</p>
<p>導入(5分)</p>	<p>①前時の振り返りをする。 T:どんなことを学習してきましたか。 C:計算のきまりを見つけました。</p> <p>T:どんな計算のきまりがありましたか。 C:( )を先に計算する。 C:<math>\square \times \Delta = \Delta \times \square</math> C:<math>(\square \times \Delta) \times \bigcirc = \square \times (\Delta \times \bigcirc)</math></p> <p>②めあてを立てる。 T:前時の振り返りを発表してください。 C:他にはどのような計算のきまりがあるのか、調べたいと思いました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(他には)どのような計算のきまりがあるのか調べよう。</p> </div>	<p>※導入では以下の3点を思い出させる。</p> <p>①計算のきまりの具体的な内容 ②計算のきまりとはどんな数字を当てはめても成り立つこと ③計算のきまりは記号で表せること</p> <p>※前時までの児童の振り返り(学習感想)を基に、本時のめあてを立てる。</p>
	<p>③問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ぶどうとりんごのシールがあります。シールは全部で何枚になるでしょうか。</p> </div> <p>④自力で解決する。 C1:<math>6 \times 8 + 3 \times 8 = 72</math> ぶどうのシールのまい数を計算した後に、とりんごのシールのまい数を計算する。 C2:<math>(6+3) \times 8 = 72</math> ぶどうとりんごのシールのたての数を足して、あとから8列分を計算する。</p> <p>⑤考えを発表する。 T:これらの式を説明してください。 C:ぶどうのシール6枚を8列分と、りんごのシール3枚を8列分。バラバラに計算して、2つを合わせています。 C:バラバラ作戦です。 C:先にぶどうのシールとりんごのシールのたての数をまとめます。それが全部で8列あるから最後にかけ算で計算しました。 C:まとめて作戦です。</p>	<p>※シールシートを用意し、数字や線を書き込むことにより問題解決の見通しがもてるようにする。</p> <p>※</p> <p>※発表した児童の式や図を他の児童に説明させる。 ※児童の発言(エッセンス)を板書し、残しておく。 ※考えに名前(〇〇作戦など)をつけ、理解しやすいようにする。</p>

展開  
(25分)

⑥話し合いながら、計算のきまりを見付ける。  
 T:これらの式から、どのような計算のきまりが見付かりそうですか？  
 C:式や考え方がちがいます。  
 C:どちらもシールのまい数を表しているということは同じです。  
 C:答えが同じなので、2つの式を=で結べます。  
 C:2つの式が同じだという計算のきまりがありそうです。  
 C:他の数字でもたしかめてみないと、計算のきまりとは言えません。

⑦問題を解き、他の数字でも成り立つのか確認をする。

ぶどうとりんごのシールがあります。シールは全部で何枚になるでしょうか。

⑧考えを発表する。  
 C1:  $3 \times 6 + 2 \times 6 = 30$   
 C2:  $(3+2) \times 6 = 30$   
 C:答えは同じになるから、2つの式を=でむすべそうです。  
 C:  $3 \times 6 + 2 \times 6 = (3+2) \times 6$

⑨本時のまとめをする。

バラバラ作戦=まとめて作戦という計算のきまりがある。

⑩記号を用いた表し方を知る。

バラバラ作戦=まとめて作戦という計算のきまりがある。  
 $\square \times \bigcirc + \triangle \times \bigcirc = (\square + \triangle) \times \bigcirc$ という計算のきまりになる。

(⑪適用問題を解く。)  
 T:バラバラ作戦はまとめて作戦に、まとめて作戦はばらばら作戦の式に変えましょう。  
 ・  $22 \times 4 + 28 \times 4$   
 ・  $(5+10) \times 7$

⑫本時の学習を振り返り、学習感想を書く。

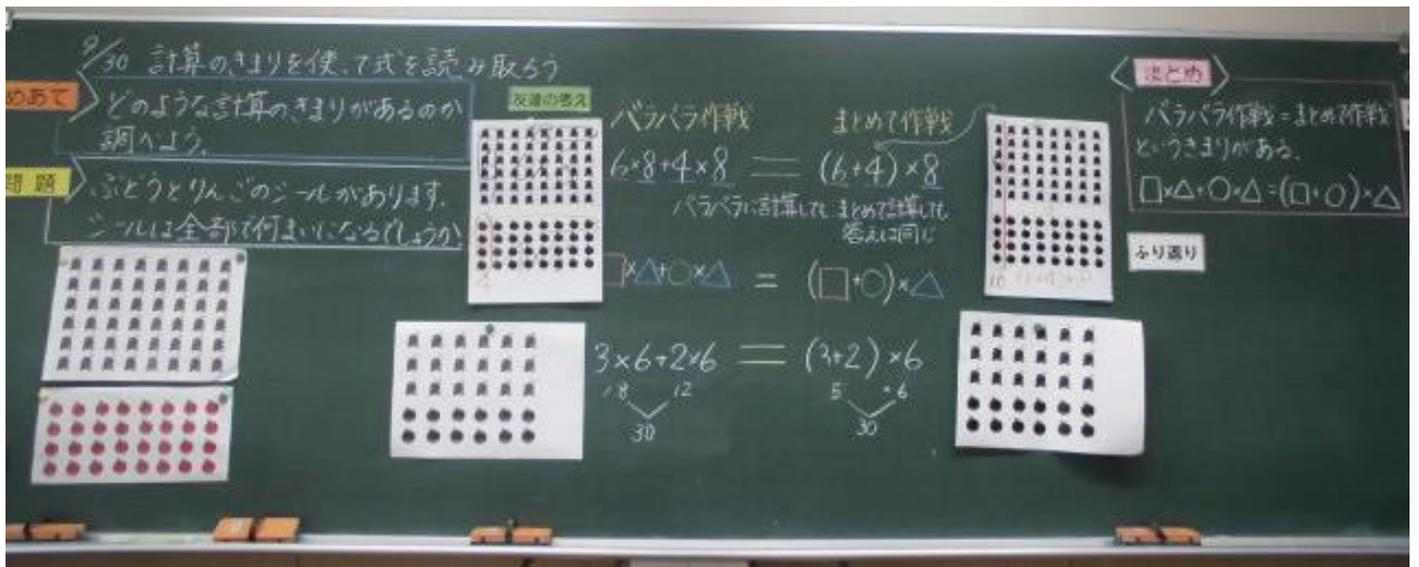
※共通点と差異点を見付けながら、考える。  
 ※計算のきまりとはどんな数字を当てはめても成り立たなければならないことを児童から引き出す。

※バラバラ作戦とまとめて作戦の両方に取り組ませる。  
 ※計算のきまりにつながるように、同じ数字は同じ色で線をひく。

※まとめることが苦手な児童には、板書してある言葉をつなげるよう促す。

※児童の実態に応じて、色がついた数字を記号に変換していく。または、数字に記号カードを重ねていく。  
 ※時間があれば適用問題に取り組む。  
 ※問題に取りかかることが難しい児童には、ヒントカードを渡す。  
 ☆【思】2通りの式の違いを比べて、共通するきまりや関係を考え、見いだしている。(ノート分析、行動観察)  
 ※振り返りの視点を示して学習を振り返らせる。

③ 第5時の板書計画



8 授業を観る視点(10の視点から抜粋)

- ③子どもは、友達の考えを尊重しているか。友達の考えの中に、新しい考えの種や自分の考えを整理してくれる考えがあるという視点で友達の考えを聞いているか。
- ⑦教師は、問うべき問いを問うているか。